

北原白秋「五十音」 通称:あめんぼの歌

あめんぼ あかいな あいうえお
(水馬 赤いな あいうえお)

うきもに こえびも およいでる
(浮藻に 小蝦も 泳いでる)

かきのき くりのき かきくけこ
(柿の木 栗の木 かきくけこ)

きつつき こつつ かれけやき
(啄木鳥 こつつ 枯れ櫓)

ささげに すをかけ さしすせそ
(大角豆に 酢をかけ さしすせそ)

そのうお あさせで さしました
(その魚 浅瀬で 刺しました)

たちましょ らっぱで たちつてと
(立ちましょ 喇叭で たちつてと)

とてとて たつたと とびたつた
(とてとてたつたと 飛び立った)

なめくじ のろのろ なにぬねの
(蛞蝓 のろのろ なにぬねの)

なんどに めめって なにねばる
(納戸に めめって なにねばる)

はとぽつぽ ほろほろ はひふへほ
(鳩ポツポ ほろほろ はひふへほ)

ひなたの おへやにや ふえをふく
(日向の お部屋にや 笛を吹く)

まいまい ねじまき まみむめも
(蝸牛 ネジ巻 まみむめも)

うめのみ おちても みもしまい
(梅の実 落ちてても 見もしまい)

やきぐり ゆでぐり やいゆえよ
(焼栗 ゆで栗 やいゆえよ)

やまだに ひのつく よいのいえ
(山田に 灯のつく よいの家)

らいちょうは さむかろ らりるれろ
(雷鳥は 寒かろ らりるれろ)

れんげが さいたら るりのとり
(蓮花が 咲いたら 瑠璃の鳥)

わいわい わっしょい わいうえを
(わいわい わっしょい わいうえを)

うえきや いどがえ おまつりだ
(植木屋 井戸換へ お祭りだ)

「た行」まで ゆっくり読んでみましょう



あめんぼ あかいな あいうえお

(水馬 赤いな あいうえお)

うきもに こえびも およいでる

(浮藻に 小蝦も 泳いでる)

かきのき くりのき かきくけこ

(柿の木 栗の木 かきくけこ)

きつつき こつこつ かれけやき

(啄木鳥 こつこつ 枯れ櫓)

ささげに すをかけ さしすせそ

(大角豆に 酢をかけ さしすせそ)

そのうお あさせで さしました

(その魚 浅瀬で 刺しました)

たちましょ らっぱで たちつてと

(立ちましょ 喇叭で たちつてと)

とてとて たったと とびたった

(とてとてたつたと 飛び立った)